

神奈川県・平塚市

カレーパンはお好きですか？

グルメ本のさきがけ 村井弦斎

東京より JR 東海道線で1時間余り、私の住む湘南の地 平塚がある。この地に明治時代の当時10万部を超えるベストセラー小説『食道楽（明治36年発行）』を執筆した村井弦斎（むらいげんさい）が、1904年（明治37）から亡くなるまで平塚駅の南側に住んでいた。住居あとは今「村井弦斎公園」として残り、毎年「弦斎祭り」の会場となっている。食道楽は小説でありながら、その話の流れのあちこちに600種以上の四季折々の料理や食材の話題が盛り込まれており、グルメ本の先駆けといえるべき作品である。

また、「小児には徳育よりも、知育よりも、躾育よりも、食育が先。躾育、徳育の根元も食育にある。」と記述し食育の先駆者である。



シャンパンベーカーリー



この下で揚げられている

弦斎フード

この中に登場する弦斎フードがいくつか平塚で食べることができる。その一つカレーを2000年頃に専門店を含む市内のレストランが再現復活させ、各々が工夫し弦斎レシピを基本に現代人の味覚に合うようにアレンジし、新たな弦斎カレーを生み出した。

弦斎カレーパン

ここに紹介する「弦斎カレーパン」は、市内の老舗「高久製パン」が食道楽に出てくるレシピの弦斎カレーとパンを融合させて製品化した。



はずかしがりやのカレーパン



カレーパン解剖図

名品である。パン生地の中にお米を混ぜてあり、カレーの具の脇に福神漬が入ったカレーライスのようなカレーパンだ。揚げたての熱々を食べるとカレーとパンとの絶妙のコンビネーションである。冷めてもおいしいが、揚げたての食感を楽しみたいのであれば ①電子レンジで30秒 ②オーブントースターで1分 にて熱々の再現ができる。因みに、「神奈川フードバトル銀賞」、「横須賀カレーフェア準グランプリ」などの栄誉に輝き、「湘南ひらつか七夕祭り」でも出店があり大人気商品となっている。もっとグルメを楽しみたいのであれば、ひとくちカツの入った「弦斎カツカレーパン」もある。

平塚にお越しの節は、是非ご賞味いただきたい。お土産には5個入りの箱もある。

そして、全国のカレーパン党よ、ご当地のカレーパンをご紹介ください。カレーパンバトルをこの誌上で展開するのも「ご当地グルメ自慢」の楽しみではありませんか！

（石黒茂雄・67回記）